

3

九州ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 山本 政弘

(独)国立病院機構九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター部長

研究協力者 南 留美

(独)国立病院機構九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

研究要旨

HIV治療の進歩に伴い患者の予後は劇的に改善したが、患者高齢化による肝炎や腎疾患、精神疾患などの合併だけでなく生活習慣病、がんなどの合併の増加により、慢性疾患医療や介護リハビリ等が、特に感染から35年近くが過ぎた薬害被害者等で大きな問題となっており、専門の拠点病院だけでなく多くの一般専門医療機関や介護などの施設も含めた慢性期医療体制の構築、地域における医療介護連携の必要性がより一層強まっている。しかしながら未だに根強い差別偏見に基づく医療、介護拒否があるだけでなく、特に地方においては緊急時対応すら難しい地域も多い。

本研究はこのような地方におけるエイズ医療の問題点の把握と地方におけるエイズ医療向上を目指して行なったものである。

A. 研究目的

HIV治療の進歩にともなう患者の予後改善により患者高齢化による長期療養、介護や、肝炎や腎疾患、精神疾患、生活習慣病、四肢障害など多くの合併症の進展などが、特に感染から35年近くが過ぎた血友病患者等で大きな問題となっており、専門の拠点病院だけでなく多くの一般専門医療機関や介護などの施設も含めた地域における慢性期医療体制の構築、医療連携の必要性がより一層強まっている。しかしながら未だに根強い差別偏見に基づく医療、介護拒否が特に地方においてはみられる。

本研究はこのような地方におけるエイズ医療の問題点の把握と地方におけるエイズ医療向上を目指して行なったものである。

(倫理面への配慮)

本研究においては患者人権とくにプライバシーの保護は重要であり、特に配慮を行なった。

B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

1) HIV感染動向

他ブロック、特に都市部においては昨今新規感染報告数が頭打ち～微減傾向にあるが、九州ブロックにおいては依然増加傾向が継続しており、特に未

診断感染者の総数は関東甲信越地方と同等であるだけでなく、増加傾向にある可能性も指摘されている(図1)。検査促進を含む啓発活動の遅れが考えられ、九州ブロックにおける今後のより一層の検査促進を多くの分野で拡大していく必要がある。

2) 九州ブロックにおける地域連携推進

B. 研究方法

長期療養に伴う二次病院、療養施設、介護施設などにおける患者受け入れ促進などを目的として、戦略的な研修を行なった。

C. 研究結果

(1) 長期療養施設の受け入れ促進

施設長などを対象とした研修会、対象となる施設の全職員を対象とした出前研修、実地研修など段階を追った研修を積み重ねることにより少しずつではあるが、受け入れ施設が増加している。

また昨年度からやっとではあるが福岡県において福岡県歯科医師会主導にて149カ所の歯科ネットワークが構築され、少しずつ稼働が始まっている。これをモデルとして各県にもネットワークを広げたい。

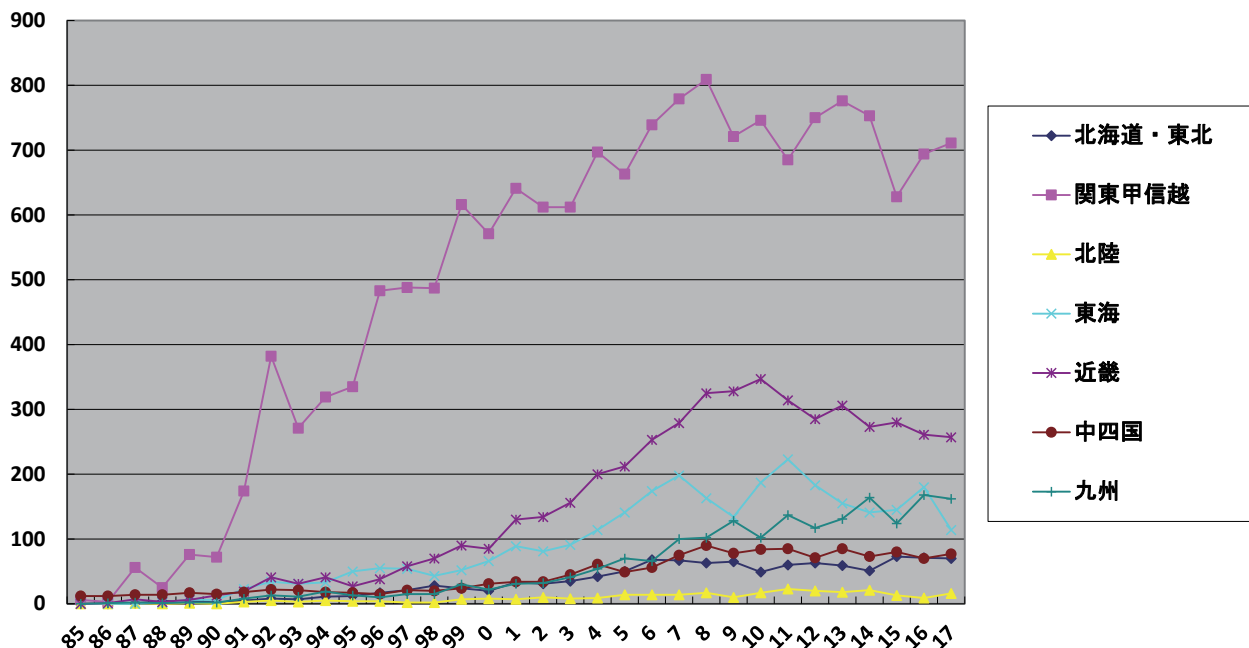


図1 地域別HIV/AIDS新規報告者数年次推移

その一方、二次病院、介護施設などの受け入れは少しずつ増えてはいるものの、まだまだ不十分な状況が続いている。いくら拠点病院が努力をしても、介護施設などからはなぜ一病院がこのような研修を行うのか、保健所などの仕事ではないのかという指摘も多く、行政からの働きかけがない場合、行政は受け入れ拒否を黙認していると認識されてしまう危険性がうかがえる。今後はより一層行政の協力が必要である。

令和元年度出前研修実績

- 日時：2019年1月9日
- 場所：夫婦石病院
- 出席者：講師2名、参加者109名

- 日時：2019年1月15日
- 場所：社会福祉法人宗像市社会福祉協議会
- 出席者：講師2名、参加者42名

- 日時：2019年1月16日
- 場所：山茶花在宅クリニック
- 出席者：講師2名、参加者10名

- 日時：2019年1月25日
- 場所：福岡南デイサービスセンター

- 出席者：講師2名、参加者15名

- 日時：2019年1月28日
- 場所：那珂川市社会福祉協議会指定居宅介護支援事業所
- 出席者：講師2名、参加者23名

- 日時：2019年2月25日
- 場所：那珂川市社会福祉協議会
- 出席者：講師2名、参加者50名

- 日時：2019年3月15日
- 場所：月の浦デイサービス・みんなの木
- 出席者：講師2名、参加者12名

- 日時：2019年3月17日
- 場所：福岡県ホームヘルパー連絡会
- 出席者：講師2名、参加者40名

- 日時：2019年3月20日
- 場所：那珂川市社会福祉協議会居宅介護支援事業所
- 出席者：講師2名、参加者30名

- 日時：2019年3月22日
- 場所：医療法人南川整形外科病院

- | | |
|--|--|
| <p>■出席者：講師1名、参加者<u>55</u>名</p> | <p>■出席者：講師2名、参加者<u>17</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年3月23日</p> <p>■場 所：福岡赤十字病院デイホスピスイこい</p> <p>■出席者：講師3名、参加者<u>15</u>名</p> | <p>■日 時：2019年8月22日</p> <p>■場 所：戸畑在宅医療・介護連携支援センター</p> <p>■出席者：講師4名、参加者<u>66</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年3月28日</p> <p>■場 所：メディケア訪問看護リハビリステーション</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>25</u>名</p> | <p>■日 時：2019年8月29日</p> <p>■場 所：医療法人順和 長尾病院</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>100</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年4月3日</p> <p>■場 所：有料老人ホームゆうはな</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>16</u>名</p> | <p>■日 時：2019年9月11日</p> <p>■場 所：地域密着型介護老人福祉施設 清滝の郷</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>18</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年4月26日</p> <p>■場 所：大原病院訪問看護ステーション</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>10</u>名</p> | <p>■日 時：2019年9月18日</p> <p>■場 所：訪問看護ステーションきき・ら・ら</p> <p>■出席者：講師1名、参加者<u>8</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年5月9日</p> <p>■場 所：一般社団法人粕屋歯科医師会</p> <p>■出席者：講師1名、参加者<u>50</u>名</p> | <p>■日 時：2019年9月25日</p> <p>■場 所：地域活動支援センター そよかぜのまち</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>18</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年5月16日</p> <p>■場 所：福岡就労支援連絡会</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>26</u>名</p> | <p>■日 時：2019年10月11日</p> <p>■場 所：南第10いきいきセンター ふくおか</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>21</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年6月12日</p> <p>■場 所：福岡県筑紫保健福祉環境事務所</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>56</u>名</p> | <p>■日 時：2019年11月13日</p> <p>■場 所：大楠診療所</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>15</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年7月3日</p> <p>■場 所：福岡市南区介護支援専門員連絡協議会</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>23</u>名</p> | <p>■日 時：2019年11月16日</p> <p>■場 所：ココカラファインヘルスケア（株）</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>27</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年8月7日</p> <p>■場 所：吉村病院</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>29</u>名</p> | <p>■日 時：2019年12月11日</p> <p>■場 所：久留米三井薬剤師会</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>10</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年8月20日</p> <p>■場 所：医療法人かつき会香月病院 住宅型有料老人ホーム香月恕経庵</p> <p>■出席者：講師3名、参加者<u>47</u>名</p> | <p>■日 時：2020年1月14日</p> <p>■場 所：筑豊MSW研究会</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>32</u>名</p> |
| <p>■日 時：2019年8月22日</p> <p>■場 所：春日市社協ホームヘルパーステーション</p> | <p>■日 時：2020年2月15日</p> <p>■場 所：八田内科医院</p> <p>■出席者：講師2名、参加者<u>30</u>名</p> |

- 日 時：2020年2月27日
- 場 所：認知症の介護を考える会
- 出席者：講師2名、参加者____名

-
- 日 時：2020年3月12日
 - 場 所：久留米三井薬剤師会
 - 出席者：講師2名、参加者____名
-

2) 九州ブロックにおける個別救済

B. 研究方法

九州ブロックは都市部と違い、薬害被害者は地方で孤立していることが多く、また血友病の後遺症や肝炎など多くの合併症もあり、個々にその問題点は違うため、個別の救済が必要である。そのため九州ブロックでは今年度より**医師、看護師、MSW、カウンセラー**からなる**救済医療チーム**を設立し、以下のような個別救済活動をおこなった。

(1) 地域臨床カンファレンス

地域連携、福祉など多岐にわたる問題をもつ患者をブロック拠点病院の多職種チーム、該当拠点病院のチーム、行政関係者、地元の福祉担当などとカンファレンスを行い、解決策を模索するものである。

今年度は長崎にて開催した。

また福岡、長崎、宮崎などにチームを派遣し療養環境の整備など患者個人個人の問題解決にあたった。

(2) 精密検査入院パス

地域で種々の問題を抱える患者を短期間ブロック拠点病院で入院させ、精密検査を行った上で、治療方針の決定、療養環境の環境の整備等を行い、個別救済に結びつけた。

さらに動脈硬化の指標としてFMDを導入した。

3) において詳しく報告する。

今年度は10名の精密検査入院を行った。

C. 研究結果

(1) (2) により個別に救済や療養環境整備につなげることができた。また癌や生活習慣病の早期発見、治療方針の見直しなどもおこなっている。

3) HIV感染者における血管内皮機能検査と動脈硬化の危険因子との検討

A. 研究目的

FMD (Flow Mediated Dilatation: 血管内皮機能検査) は、動脈硬化含めた心血管イベント、さらにその予測因子としても有用性が数多く報告されている。一方でHIV感染者に関しては、HIV自体による慢性持続感染としての動脈硬化、さらにはART自体による薬剤性の動脈硬化が問題となっている。HIV感染者に対してFMD測定することで、様々なパラメーターと比較し、動脈硬化およびその予測因子としての有用性を検討した。

B. 研究方法

2015年1月から2019年5月までに当科に入院歴のあるHIV感染患者に対して、FMDを測定した患者を後ろ向きに調査した。また各患者に対して、横断的にBMI、生活歴、動脈硬化に関連する画像所見、脂質代謝検査、HIV関連検査およびARTによる治療期間ならびにPI使用の有無を調査した。

C. 研究結果

FMDを測定した総患者は29名で、すべて男性であった。平均BMIは21.7であった。FMDが6%以下は7名(24.1%)であり、うちPI使用歴のある患者は1名であった。FMDは7%以上であったが、その後重大な心血管イベントとして、脳血管障害を起こした患者が2名であった。特に脳梗塞を発症した例に関しては、危険因子として、喫煙・飲酒・高血圧・脂質異常があり、アドヒアランス含めたコントロール不良例であった。

D. 考察

今回のFMDでは、脂質異常やART治療歴含め明らかな相関は認めなかった。FMDのみでなく他の検査含め総合的に判断する必要があると考えられた。今後FMD測定患者を増やし、さらに検討を加えていく予定である。

4) ブロック内における HIV 医療の均てん化

B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

この研究班では長年種々の方法を用いて格差是正、均てん化を目指してきた。今年度もブロック内各県の行政、中核拠点病院、各拠点病院の協力を得てブロック内のエイズ診療における均てん化を目的とした研修会を開催した。

- (1) 均てん化を目指した中核拠点病院連絡会議（中核拠点病院対象）および行政担当者会議
- (2) ブロック拠点病院にブロック内各拠点病院職員を集めて行なう通常の研修会（ブロック内拠点病院対象）
- (3) 拠点病院職員実地研修
講演形式の研修会だけでなく、ブロック内拠点病院職員対象のエイズ診療における実地研修を当院にて行なった。
- (4) 福岡HIV保健医療福祉ネットワーク会議

E. 結論

九州ブロックにおいては、都市部から離れた地方での患者増加だけでなく、新規患者も含め患者高齢化の傾向が強く、薬害被害者も含め種々の合併症も増え、通院困難者や地域における介護が必要な患者も増えてきている。しかしながら、HIV患者においては未だ差別偏見などにより、地域における包括ケアシステムからこぼれ落ちる患者も九州などの地方では決して少なくない。また被害者の個別救済においてもブロックなどの拠点病院、特に医療だけでは解決できない療養上の問題も多く、施設の垣根を越えた支援が必要であり、地域全体を俯瞰した行政による地域連携の主導がより重要となってくる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

論文

- 1) Clinical characteristics of HIV-1-infected patients with high levels of plasma interferon- γ : a multicenter observational study. Watanabe D, Uehira T, Suzuki S, Matsumoto E, Ueji T, Hirota K, Minami R, Takahama S, Hayashi K, Sawamura M, Yamamoto M, Shirasaka T. BMC Infect Dis. 2019 Jan 5;19(1):11. doi: 10.1186/s12879-018-3643-2
- 2) Correlates of telomere length shortening in peripheral leukocytes of HIV-infected individuals and association with leukoaraiosis. Minami R, Takahama S, Yamamoto M. PLoS One. 14(6) Epub.7月2019

原著

- 1) HIV感染者の高齢化による問題 ―合併症の増加と診療体制の問題を中心に― 山本政弘 新薬と臨牀 第68巻第6号別冊 Page77-81 2019年6月10日発行

- 2) HIV感染症と悪性腫瘍 山本政弘 呼吸器内科 Vol.36 No.5 Page457-459 2019年11月28日発行

学会発表

国際学会それに準ずるもの

- 1) Association between plasma pentraxin 3 levels and age-related diseases in HIV infected individuals. Minami R, Takahama S, Kazuhiko K, Yamamoto M. Asia Pacific AIDS & Co-infections Conference (APACC) 2019.Jun 28, 2019, Hong Kong

総会およびそれに準ずるもの

- 1) エイズ診療で国立病院機構が地域で果たすべき役割. 今橋真弓、岡 慎一、伊藤俊広、山本政弘、渡邊 大、宇佐美雄司、池田和子、本田美和子、吉野宗宏、横幕能行. 2019年国立病院学会 2019/11/8 2019/11/8-11/9 名古屋
- 2) 非梅毒性腸管スピロヘータ症を合併したHIV感染症の2例. 小山和彦、高濱宗一郎、南留美、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、山本政弘. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会 2019/11/27 2019/11/27-11/29 熊本
- 3) HIV感染者における血管内皮機能検査と動脈硬化の危険因子との検討. 高濱宗一郎、小山和彦、南留美、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、山本政弘. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会 2019/11/28 2019/11/27-11/29 熊本
- 4) インテグラーゼ阻害剤による体重増加に関与する因子の検討. 南留美、高濱宗一郎、小山和彦、小松真梨子、城崎真弓、長與由紀子、犬丸真司、山本政弘. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会 2019/11/28 2019/11/27-11/29 熊本
- 5) 我が国の抗HIV療法の現状と今後. 横幕能行、伊藤俊広、山本政弘、岡 慎一、豊嶋崇徳、茂呂 實、渡邊珠代、渡邊 大、藤井輝久、今橋真弓、渡邊真理子. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会 2019/11/28 2019/11/27-11/29 熊本
- 6) 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向. 蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、湯永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌秀、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、山本政弘、松下修三、

健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊地正、第33回日本エイズ学会学術集会・総会
2019/11/28 2019/11/27-11/29 熊本

- 7) 二次医療圏から考えるエイズ診療拠点病院の配置。今橋真弓、岡 慎一、伊藤俊広、山本政弘、内藤俊夫、遠藤知之、茂呂 實、渡邊珠代、渡邊 大、藤井輝久、宇佐美雄司、池田和子、吉野宗宏、本田美和子、葛田衣重、三木浩司、四柳 宏、横幕能行。第33回日本エイズ学会学術集会・総会 2019/11/29 2019/11/27-11/29 熊本
- 8) フェニトインとカルバマゼピン内服患者において、ドルテグラビルの血中濃度の検討を行った1症例。合原嘉寿、大石裕樹、西野 隆、小山和彦、高濱宗一郎、南 留美、高島伸也、山本政弘。第33回日本エイズ学会学術集会・総会（ポスター） 2019/11/27-11/29 熊本

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし